

## HLA 抗体による新生児同種免疫血小板減少症（NAIT）と思われる 1 症例

◎松永 光博<sup>1)</sup>、中島 杏理<sup>1)</sup>、山口 由佳<sup>1)</sup>  
地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター<sup>1)</sup>

新生児同種免疫血小板減少症（以下 NAIT）は、ヒト血小板特異抗原（以下 HPA）あるいはヒト白血球抗原（以下 HLA）に対する母児間不適合が原因で產生された母体の抗体が経胎盤性に胎児へ移行することで、新生児に一過性の血小板減少症をきたす疾患である。今回、我々は第 1 子で HLA 抗体による NAIT と思われる症例を経験したので報告する。

20XX 年市中の産婦人科院にて 3298 g で出生(在胎 37 週)した男児、日齢 3 日で新生児低血糖(30~40mg/dL)の治療を目的に当院 GCU へ入院となる。入院時検査 HGB 12.9 mg/dL、WBC 4440/ $\mu$ L、PLT 2.4 万/ $\mu$ L、GLU 84 mg/dL、T-Bil 14.5 mg/dL、CRP 0.05 mg/dL。免疫グロブリン (IVIG)1g/kg を 2 日間の予定で治療開始され、翌日も PLT 2.7 万/ $\mu$ L と低値であったため血小板製剤(15/ml/kg)輸血実施。血小板輸血と IVIG 投与により日齢 5 日には PLT10 万/ $\mu$ L に上昇した。入院が週末であったため本格的な病態精査が日齢 5 日以降となり、日齢 6 日に患児・父親・母親の検体を日本赤十字社血液センターへ提出し HLA

抗体検査・HPA 抗体検査を依頼した。

患児：血液型 A 型 RhD 陽性、直接抗グロブリン試験陰性。母親：血液型 O 型 RhD 陽性、不規則抗体陰性。患児と母親：HLA 抗体(A2,A24)陽性、HPA 抗体陰性。父親の血球(HLA 抗原)と母親の血清(HLA)抗体の交差適合試験陽性。以上の検査結果より NAIT と診断された。

本症例では出血性合併症の症状・所見は認めず、血小板輸血と IVIG 療法により速やかに PLT 値は回復し、HLA-PC は必要なかった。本症例は転院時に日齢 3 日であり、早急な精査が望まれる。当施設は HPA・HLA 検査を実施しておらず、血液センターへの検査依頼が必要で、さらに週末の緊急入院であったため確定診断までに、時間を要した。NAIT の経験が少ない当施設において多職種とのコミュニケーションを要し、大変貴重な症例であった。

連絡先：佐世保市総合医療センター  
医療技術部 臨床検査室  
0956-24-1515